

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	あいの里有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	平成28年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社長が音楽に造詣が深く、広い交流館に本格的なカラオケ機器を装備、利用者職員が一同に会してカラオケ、テレビリハビリ体操、ビンゴゲーム等で余暇を過ごす事ができるようになっており、日曜、祝祭日によく利用している。各種ボランティア団体の慰問も多く、その時は必ず地域の住民の方にも声掛けし、参加をして頂き、利用者と同様顔なじみの関係を構築、一緒に楽しんでいる。また、広大な自家菜園を有し、野菜の殆どを栽培、利用者と一緒に収穫し、新鮮な野菜をふんだんに使ったの手料理はみんなから好評を博している。年1回の家族会でも職員手作りの料理と演芸でおもてなし、喜ばれている。車の往来の少ない静かな場所なので、天気の良い日は散歩、日向ぼっこに出かける事が多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民の方との交流が図られ地域に根付いた開設10年目の事業所である。事業所に併設された交流館では、地元の歌手やボランティア団体の訪問があり、地域の方にも声かけし見学や観賞に来ていただいている。管理者と職員は利用者の尊厳を大切に考えながらケアに取り組んでおり、忙しい中でも利用者寄り添い、ゆとりを持って利用者一人ひとりの思いを大切にしながら、穏やかに楽しく生活できるよう支援している。また、職員の定着率もよく、利用者や家族が安心してサービスを提供ができるよう職員の研修にも力を入れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)  
氏名 柴田 薫

評価完了日 平成 28 年 12 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念はホーム内の目に付きやすい場所に貼ってあり、お互いに意識しながら実践できるよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念を大切に継承し、みんなが愛という絆でつながっているひとつの家族であるという思いをもって日々業務に取り組んでいる。理念は玄関や各ユニットに掲示しており、利用者も一緒に唱和することがある。職員は、理念に基づく個人目標を作成し、ケア会議や職員会で振り返りを行いながら実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 開設当初から自治会に加入し、毎月の常会には代表者が出席している。地方祭、亥の子、バラ大師では子供たちの訪問もある。また、バラ大師の縁日、餅まき等の行事には利用者、スタッフが参加し、交流を深めている。町内外のボランティアも数多く来所、その時はご近所にも声掛けし、一緒に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地区での話し合いに代表自らが毎回参加している。地域に開かれた事業所を目指し、地域交流館を併設して地域住民と日常的に交流している。ボランティアが事業所に来訪した際は住民を招待して共に楽しんだり、カラオケ大会の開催やカラオケ機器の貸し出し等を行っている。また、バラ大師の縁日やかまぼこ板絵画展、亥の子や秋祭り等地域の行事に多数参加して地域の方と顔見知りになっており、協力を得て一緒に行事に参加することもある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) リハビリ体操、演芸等のボランティア活動を通して交流することにより、認知症の方の理解をして頂きながら支援を受けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2か月に1回、年6回定期的に開催している。 利用者の状況、サービスの状況、課題等を報告、適切なアドバ イスを頂き、サービスの向上に役立てている。委員さんは真剣 に協議して頂き、当ホームの行事等にも参加、協力して頂いて いる。	
			(外部評価) 運営推進会議には利用者や家族、関係機関職員のほか多くの地 域住民の参加があり、住民は毎年交代して活発な意見交換を 行っている。会議では利用者の状況や行事報告のほか、市担当 者から感染症情報や避難計画作成に関する助言を得たり、障害 者施設の事件を受けて日中と夜間の安全体制について警察と連 携を密にする等の助言を得、運営に活かしている。管理者は運 営推進会議を通して関係機関との連携が進むと共に、地域住民 との関係が広がっていると感じている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 市担当者とは、本庁、支所ともに何でも相談し易い関係を築い ている。支所、包括支援センターの担当者は運営推進委員とし てもアドバイスや協力を頂いている。介護相談員の訪問も年3 回受け入れ、現場での適切なアドバイスや事後報告書を市の担 当者を通じて頂いている。	
			(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加し て事業所の状況を把握しており、助言や支援を得ている。管理 者は市が開始したインターネットクラウドに登録して、市や市 内の介護保険事業所の情報等を閲覧して活用している。また、 介護相談員が年3回来訪して利用者の話しに耳を傾けてくれて おり、意見を参考にしながら支援に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみで居室には施錠はない。職員会議（内部 研修）で話し合い、身体拘束について十分話し合い、身体拘束 をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 毎年内部研修を実施し、身体拘束をしないケアについて周知徹 底している。現在転倒の危険が予測される利用者に対し、家族 に説明して了承を得た上でセンサーマットを使用するほか、玄 関にはセンサーを設置し日中は開放しており、職員が見守る 中、利用者は自由に外に出ることができる。また、言葉の拘束 についても気をつけており、不適切な声かけに気付いた時はそ の都度注意し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待はあり得ない。不適切な言動が見られた場合は、その場で注意している。また、職員会、内部研修等で話し合いの場を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度は知っているが、実際に利用しているケースがないので、十分理解していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居申し込みや、入居契約時に十分な説明を行っている。改定事項が生じた場合は文書で説明を行い、納得の上、同意を得ている。家族会、面会時にも随時説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会、ケアプラン更新時等に意見、要望を聞くようにしている。又、家族会ではスタッフが入らず、家族のみでの話し合いの場を設けており、忌憚のない意見を頂いている。身体状況、受診状況も報告している。2ヶ月に1回担当者がお便りを書き、利用者の様子も写真入りでお知らせしている。	
			(外部評価) 家族会を年1回開催し、家族のみで話し合っ自由に意見を述べてもらう機会を持っている。会議には10名以上の家族が参加しており、最近では看取りについて要望が出るようになったため、施設長は看取り体制の整備等準備の必要性を認識している。サービス内容を問うアンケート調査では、全員が満足しているという結果が返され、職員の励みになっている。また、担当職員が2か月に1回写真と手紙を添えて便りを送っており、家族には利用者の様子がわかるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会を開催しており、代表者も必ず参加して職員の意見や要望を聞き、改善できるところは速やかに対処してもらっている。27年度より、施設長との個人面談を実施、日頃の不平不満、要望事項等を聞き改善につなげている。  (外部評価) 職員は普段から施設長や管理者に意見を言いやすい環境であると感じており、月に1回開催する主任会議で職員の意見を集約し、その後職員会やユニット会義、ケア会議を実施して職員の意見を反映させている。施設長は個人面談を実施して職員の意見を聞く機会を設けたり、他施設での勤務経験を持つ職員などから業務内容の改善等の提案もある。また、研修制度も充実しており、多くの職員が研修に参加できるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況は代表者が十分把握されており、職員の福利厚生についても各自、向上心をもって働けるよう努められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤、非常勤の区別なく、希望する研修には参加でき、研修費用の負担、勤務扱い、時間給支給、交通費支給等研修に参加しやすい体制をとっている。南予地区では研修参加人数はトップクラスではほぼ毎年表彰してもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の相互研修にも殆ど参加し、他施設との交流を図っている。各種研修会を通じての交流もできている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前、入居時の面接で十分話を聞き、また家族や担当ケアマネージャーから情報を収集し、本人が安心して生活できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、面会時に時間をとり、十分話を聞くようにしている。家族が遠慮なく意見を出しやすいように意見箱も設置している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族がまず何を必要とされているか、どんな支援を望まれているのか、十分に話し合い状況を見極めながら対応していく。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人にできる事は一緒にしながら、コミュニケーションを図り、人の役に立っている事が自覚でき、生き甲斐にもつながるよう、役割分担をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の担当を決め、お便りを書いたり、広報誌等で近況を報告し、より良い関係を築いている。面会時には家族水入らずで十分に話ができる場を作り、家族の協力を得ながら本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 月に1回の訪問診療や訪問美容により、主治医や看護婦、美容師との馴染みの関係を作り、継続することにより、本人の安心につながっている。その他、地域行事への参加、地域の人のボランティア等の来所により、なじみの交流ができています。	
			(外部評価) 事業所では、面会を兼ねて来訪してもらい毎月の利用料を支払う仕組みにしており、家族との関係が途切れず緊密な関係が築けるようにしている。利用者は地元の出身者が多く、地域交流館で行われる行事や地域行事に出かけた際に知人に出会って言葉を交わす機会も多い。また、家族の協力を得て馴染みの理容室に行ったり、使い慣れた化粧水を購入できるよう職員が同行するなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中はリビングや食堂で過ごす事が多く、お互い助け合って暮らしている。時には小さいさかいもあるが、スタッフが中に入り、すぐに仲直がりできている。孤立した利用者が出ないよう見守り、声掛けをしながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院での退去や、特養への入居後もお見舞いや面会等を行い関係を大切にしている。家族と出会った時も様子を伺ったりしている。葬儀には弔電を送ったり、参列もしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活や、ケアプラン更新時に本人の思いや要望を聞き、できる限り添えるように努めている。担当職員が身近な相談者の役割を担っている。担当を中心に気付きや情報を全職員が共有してより良いケアに努めている(介護記録、業務日誌、申し送りノートの活用)	
			(外部評価) 利用者1人を職員2名が担当し、担当者はゆったりと話を聞くことができる夜勤帯の時間や、1対1になる入浴介助時に利用者の思いや意向を聞くよう努めており、廊下の壁面に飾られたかまぼこ板の似顔絵には利用者の思いや希望が添えられている。聞き取った内容は介護記録として記載し、ケア会議等で報告し職員間で共有している。墓参りを希望する利用者に職員が付き添ったり、自宅に帰りたいという利用者には外泊計画を立てるなど、その実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前、入居後の本人からの聞き取りや、家族、関係者からの情報、親戚、知人、友人の面会等の状況でこれまでの暮らしを把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人介護記録、申し送り等で個々の状態を把握し、それぞれができる力を活かして生活できるように努めている。リハビリ体操、散歩、音楽療法、レク、お料理の手伝い等個々に合わせてなるべく活力ある生活を送って頂くよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランの見直しは6ヶ月毎に家族、本人の意向を聞き、プランに反映させている。身体状況の変化に応じてモニタリングを行い、カンファレンスで協議し、的確な対応ができるよう努めている。  (外部評価) 計画作成担当者を中心に、利用者や家族の意向を確認して介護計画を作成し、ケア会議で話し合っ完成させている。日々の介護記録用紙に介護の目標を記載し、計画を意識しながらケアを実施して記録できるよう工夫している。担当職員が定期的にモニタリングを行い、状態に変化がある場合はその都度、ない場合は6か月に1回介護計画の見直しを行い、計画が現状に即したものになっているかを確認している。介護計画は家族が来訪した際に説明し同意を得ているほか、遠方の家族には計画を送付し、意見を記載し返送してもらい計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 常に利用者の状況を把握できるよう努めている。身体状況、気付き等早出、遅出、夜勤帯でそれぞれ申し送りをして情報を共有し、介護計画の見直しにつなげている。日々の記録の中で介護サービスの評価ができるよう記録用紙の改善を実行している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の希望に応じた外出支援、係りつけ医の受診の付き添い、町内の理美容室の利用等を行っている。理美容に関しては半数以上が出張美容を利用しており、好みの髪型を指定する利用者もいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域住民、ボランティア、地域の子供たち、野村中学生、運営推進委員、民生委員、介護相談員、生活支援員等多方面から支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 保護者の同意を得て、月に1回訪問診療を取り入れている。利用 者個々の病状の変化を継続して報告でき、連携も良く取れて いる。きめ細かく相談に応じてもらえるので好評である。もち ろん、精神科、心療内科、皮膚科、眼科等専門医も従来どおり 受診。本人、家族の希望の医療機関の受診も柔軟に対応してい る。 (外部評価) 利用者は地元出身者が多く、協力医が元々のかかりつけ医であ る利用者が多い。協力医は月に1回事業所を訪問して丁寧に診 療をするほか、週に1回看護師が健康管理のため来訪し、主治 医と連携し対応している。専門科外来は事業所の福祉車輛を使 用して施設長と管理者が付き添って受診し、診察の結果を家族 に報告している。また、入院が必要と判断された場合は、施設 長と管理者が家族と連絡を密にし支援しており、家族の安心感 は高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師は週1回勤務し、利用者の体調管理を行っている。看護 面での気づきや助言を行い、技術的な指導も行なっている。緊 急時には連絡し、指示を仰ぎ、必要に応じて来所し、対処して もらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合はほぼ毎日面会に行き、洗濯物の支援も行ってい る。病院、家族への連絡も行ない、早期退院に向けての医師、 看護師との情報交換もしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居中に状態が悪くなり、口から摂食できなくなった場合は ホームでの対応に限界があることを契約時に家族に伝えてい る。重度化した場合は家族と十分な話し合いもしている。看取 りを希望される家族もいるが、現段階では難しい。只、看取り に関しては研修等で勉強をしている。 (外部評価) 看取りに関する研修等を実施し、終末期のあり方や支援につ いては学んでいるものの、設備や職員の体勢に課題があり、施設 長は現状での看取りは難しいと考えている。家族には、入居時 に事業所での対応に限界があることなどを説明しているが、対 応できなくなっても医療機関と連携を取ったり、利用者や家族 の相談には乗るなど、不安を感じさせないよう支援に努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、普通救命講習を受講しており、応急処置、AEDの使い方等を学んでいる。マニュアルも作成し、内部研修等で確認している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、火災と地震を想定して避難訓練を実施、近所の方も協力して頂いている。地域の方の進言でホームの敷地内に新たに消火栓も設定できた。各災害のマニュアルも作成し、内部研修で職員の意識向上を図っている。  (外部評価) 年2回日中と夜間を想定し消防署立会いのもと、避難場所までの時間を測定するなど、実戦さながらの避難訓練を実施している。事業所の敷地内に市の助成で消火栓を設置し、建物内はスプリンクラーを完備するなど、火災対策は万全である。消防署が車で数分のところにあるため、救命救急講習等を連携し実施している。また、水や米など備蓄品の賞味期限等を確認し管理しているほか、地震等の場合でも対応できるようカセットコンロ等も常備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応と言葉使いに気を付けている。ホームの理念にも「一つの家族」を掲げ、利用者本位のケアに努め、個々のプライバシーに配慮をしている。広報誌等への写真掲載も本人や家族の了解を得ている。  (外部評価) 施設長は、月1回開催の職員会において、利用者を人生の先輩として常に敬い、言葉遣いには十分留意するよう指導している。「職員の声が大きく叱られているような気がする」と利用者から言われたことがあり、職員会で話し合っ改善した。また、入居時に広報誌への写真の掲載等個人情報の取扱いについて利用者や家族から了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の自己決定や思いを伝える事ができるように、待つゆとりをもって支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) レクや行事にはなるべく参加して頂くよう声掛けしているが、その日の体調や気分不良でどうしても参加したくない人は強制することなく、本人がしたい事をしてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回、出張美容サービスを受け身だしなみに気を付けている。毎朝の整容(男性は髭剃り)等の支援をしている。着衣もできる人には自分で選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の下ごしらえ、食後の方付け、お膳拭き等、各人のできる力を活かして、一緒に楽しく食事ができるよう支援している。自家菜園で殆どの野菜は賄っているが、菜園の世話や収穫は利用者の高齢化、重度化のため以前に比べてできる人が少なくなってきた。 (外部評価) 事業所周辺には「百菜園」と命名された広大な菜園があり、収穫した旬の野菜を使った料理を提供し季節感を味わってもらっている。利用者には日常的に料理の下ごしらえやお盆拭き、食器の後片付け等できることを担ってもらっている。誕生日は利用者に希望を聞き、ちちらし寿司やカレーライスなど好みのメニューにし、ケーキも購入しみんなで祝っている。また家族会では、職員と利用者が協同し手料理を振舞うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事摂取量のチェックをしている。水分に関しては1日1,000mlに足りない人の計量をし、こまめな水分補給をしている。食事形態は必要に応じて荒刻みや小刻みとし、むせのある人にはトロミ剤を使用、各人に合った支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に必ず歯磨きや義歯洗浄ができるよう、全員傍に付いて支援している。一部の人は舌苔ブラシを使用し口臭防止に努めている。義歯は週1回～2回ポリデント洗浄し、コップ、歯ブラシはハイター消毒をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全員トイレで排泄している。その人に応じて布パンツ、パット、紙パンツと使い分けしている。排泄記録をもとに、さりげなくトイレ誘導をして、パット汚れも少なくして、ごみ減量と経済面にも気を付けている。1名は夜間のみポータブルトイレを使用している。	
			(外部評価) 排泄チェック表により排泄パターンを把握し、利用者全員が日中トイレで排泄できるよう支援している。紙おむつ使用者はいないが、転倒の危険性がある利用者は夜間のみポータブルトイレを使用しており、排泄用品は人目に付かないよう居室の隅に置くかクローゼットに収納するなど、羞恥心を感じさせないよう配慮している。便秘の場合は、医師や看護師と相談しながら服薬調整を行うなど、スムーズに排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適切な水分補強、食物繊維の摂取、散歩、体操等を行っているが、医師の指示のもと緩下剤を使用している人は多い。緩下剤の管理調整を毎日個人別に細かくチェックし、便秘や下痢にならないよう気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 当日の本人の体調や希望を聞きながら、一人ずつゆっくり入浴を楽しんでもらうように、プライバシーと安全に気を付けている。ほぼ二日に1回は入浴できるよう支援している。	
			(外部評価) 2日に1回利用者一人ひとりがゆっくり入浴できるよう支援している。重度の利用者は、簡易入浴用リフトにより安全に入浴できるよう支援している。自宅では思うように入浴できていなかった利用者も、嫌がることなく入浴できている。また冬至に職員が自宅から柚子を持ってきて、柚子湯をゆっくり楽しむなど季節感が味わえるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も静養したい希望があれば、居室で休んでもらっている。床暖房、エアコンの調節、寝具の調節を適宜行い、各人のペースで安眠できるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬している薬の効果や副作用がわかる説明書を個人ファイルで確認できるようにしている。薬の変更は個人記録と申し送りして全職員が解るようにしている。誤薬のないように、その都度名前と顔を確認し、声を出して完全に服用できるよう決め事としている。朝、昼、夕と服薬担当の職員も決めている。服薬による症状の変化は主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除、洗濯ものたたみ、お膳拭き、テーブル拭き、野菜の収穫等日常生活の役割を分担し、職員と共に行っており、個々が持っている力を発揮できていると思う。買い物、通院、散歩、手伝い等が昔の記憶を呼び起こせるのに良い刺激となっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は努めて外に出るようにしている。園庭での外気浴、車椅子での散歩、地域内のイベント参加、花見、紅葉狩り、イルミネーション見物、かまぼこ展、外食、個人の買い物等でできるだけ外出の支援をするようにしている。 (外部評価) 天気のよい日は、重度の方を含め利用者全員が事業所の周辺を散歩しており、途中顔見知りになった人との会話を楽しんだり、牛小屋に居ついた猫を可愛がったりしている。また、乙亥相撲や歌謡大会、かまぼこ板の絵展、ダムのイルミネーションなどを利用者と一緒に見に行くなど、季節毎に外出が楽しめるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望と一緒に買い物に出かけているが、基本的には管理者がお小使いを管理している。2名の方は少額を財布に入れて常に所持されているが、よく紛失し、探す事が多い。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 面会が多いので手紙や電話でのやり取りは少ない。電話や手紙の要望があればその都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 明るく清潔に温度、湿度、換気に気を配りながら、気持ちよく過ごしてもらうよう配慮している。各行事や誕生会の写真を張ったり、四季の壁面飾り、利用者作の塗り絵、川柳等を展示したり、季節の花を活けたりと生活感を感じられるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 食堂とリビングがワンフロアで憩いの場になっており、食後はソファに座りテレビを見るなど、利用者一人ひとりが思い思いの時間を過ごしている。食堂から直接渡り廊下で地域交流館へ行けるようになっており、近隣住民とカラオケなどのイベントを楽しんでいる。リビングなどの壁に掲示された利用者の似顔絵や習字作品は、家族などの来訪者からも好評でいつも話題に上がり会話も弾んでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂の椅子、リビングのソファ、自室等それぞれの気に入った場所があるので自由に過ごしてもらっている。話をする人、テレビを観る人、居眠りをする人とそれぞれにくつろいで過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時には、使い慣れた物を持ってきて頂くようにしている。仏壇を持参された方には、毎朝お茶湯の支援も行っている。誕生会、各行事に参加した写真や家族の写真を飾って大切な人を忘れないようにしている。好みのカレンダーやスタッフ手作りの壁面飾り、人形なども掲げている。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコンや電動ベッド、クローゼットが備え付けられ床暖房も設置されている。自宅から持ち込んだ仏壇や愛用のピンク色のソファを置いたり、ぬいぐるみや家族写真を飾ったり、壁にぬり絵や利用者の希望や思い等を飾るなど、居心地よく過ごせる部屋になっている。またクローゼットには衣類や排泄用品等がきれいに収納され、清掃も行き届き気持ちよく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室、廊下、トイレ、浴室、玄関、階段には手すりを設置して、身体機能の維持と安全面に配慮している。トイレや居室には目線に合わせて目印やネーム札を付け、場所がわかりやすいようにしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	あいの里有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	平成 28 年 12 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社長が音楽に造詣が深く、広い交流館内に本格的なカラオケ機器を装備し、利用者、職員が一同に会してカラオケ、テレビリハビリ体操、ビンゴゲーム等で余暇を過ごす事ができるようになっており、日曜、祝祭日によく利用している。各種ボランティア団体の慰問も多く、その時は必ず地域の住民の方にも声掛け、参加して頂き、利用者と顔なじみの関係を構築、一緒に楽しんでいる。また、広大な自家菜園を有し、野菜の殆どを栽培、利用者と一緒に収穫し、新鮮な野菜をふんだんに使ったの手料理はみんなから好評を博している。年1回開催の家族会でも職員手作りの料理と演芸でおもてなしし、喜ばれている。近辺は車の往来の少ない、静かな環境なので、天気の良い日は散歩や日向ぼっこに出かける事が多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民の方との交流が図られ地域に根付いた開設10年目の事業所である。事業所に併設された交流館では、地元の歌手やボランティア団体の訪問があり、地域の方にも声かけし見学や観賞に来ていただいている。管理者と職員は利用者の尊厳を大切に考えながらケアに取り組んでおり、忙しい中でも利用者寄り添い、ゆとりを持って利用者一人ひとりの思いを大切にしながら、穏やかに楽しく生活できるよう支援している。また、職員の定着率もよく、利用者や家族が安心できるサービスの提供ができるよう職員の研修にも力を入れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 松本 光枝

評価完了日

平成 28 年 12 月 26 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホーム内の目に付きやすい場所に掲示し、皆で共有できるように心掛けている。利用者さんと共に声を出して読む事で再認識し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念を大切に継承し、みんなが愛という絆でつながっているひとつの家族であるという思いをもって日々業務に取り組んでいる。理念は玄関や各ユニットに掲示しており、利用者も一緒に唱和することがある。職員は、理念に基づく個人目標を作成し、ケア会議や職員会で振り返りを行いながら実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のボランティアの方々に多く来て頂き、交流を深めている。珍しい演芸等を催す時は地域の方々にも来て頂き、一緒に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地区での話し合いに代表自らが毎回参加している。地域に開かれた事業所を目指し、地域交流館を併設して地域住民と日常的に交流している。ボランティアが事業所に来訪した際は住民を招待して共に楽しんだり、カラオケ大会の開催やカラオケ機器の貸し出し等を行っている。また、バラ大師の縁日やかまぼこ板絵画展、亥の子や秋祭り等地域の行事に多数参加して地域の方と顔見知りになっており、協力を得て一緒に行事に参加することもある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域のボランティア活動や学生訪問を積極的に受け入れ、利用者さんと関わりを持つことで、理解して頂いている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を開催し、利用者さんの状況やサービス状況を 報告している。意見や質問等活発な発言を頂き、サービスの 向上に役立てている。委員さんのメンバー交代も適時実施し ている。	
			(外部評価) 運営推進会議には利用者や家族、関係機関職員のほか多くの 地域住民の参加があり、住民は毎年交代して活発な意見交換 を行っている。会議では利用者の状況や行事報告のほか、市 担当者から感染症情報や避難計画作成に関する助言を得たり 、障害者施設の事件を受けて日中と夜間の安全体制について 警察と連携を密にする等の助言を得、運営に活かしている。 管理者は運営推進会議を通して関係機関との連携が進む と共に、地域住民との関係が広がっていると感じている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者と地域包括センター長には運営推進会議に委員と して参加して頂いている。常に情報の提供や相談にも乗って 頂き協力を得ている。又、年3回の介護相談員産の訪問を受 け、利用者さんや職員の話聞いて頂いている。	
			(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加 して事業所の状況を把握しており、助言や支援を得ている。 管理者は市が開始したインターネットクラウドに登録して、 市や市内の介護保険事業所の情報等を閲覧して活用してい る。また、介護相談員が年3回来訪して利用者の話しに耳を 傾けてくれており、意見を参考にしながら支援に努めてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部研修や勉強会で正しく理解するよう努めている。止むを 得ず拘束する場合は、家族に同意書をとって、ケア会議等で 見直し等の話し合いをしている。2階の両サイドの非常口は 転落の恐れがあるので、施錠している。	
			(外部評価) 毎年内部研修を実施し、身体拘束をしないケアについて周知 徹底している。現在転倒の危険が予測される利用者に対し、 家族に説明して了承を得た上でセンサーマットを使用するほ か、玄関にはセンサーを設置し日中は開放しており、職員が 見守る中、利用者は自由に外に出ることができる。また、言 葉の拘束についても気をつけており、不適切な声かけに気付 いた時はその都度注意し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修や外部研修で勉強する機会を持ち、日頃から言葉使いには気をつけている。また、職員同士で注意し合えるよう努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方はいない。なかなか学ぶ機会がないので、勉強できる機会を作りたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に時間をとって説明を行い、納得を得ている。不安な事や心配事はいつでも気軽に相談できるよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時や担当からのお便りを通じて意見や要望を聞くようにしている。年1回の家族会の折に、家族のみでの話し合いの場を設け、忌憚のない意見を出して頂き、より良い運営につなげている。  (外部評価) 家族会を年1回開催し、家族のみで話し合っ自由に意見を述べてもらう機会を持っている。会議には10名以上の家族が参加しており、最近では看取りについて要望が出るようになったため、施設長は看取り体制の整備等準備の必要性を認識している。サービス内容を問うアンケート調査では、全員が満足しているという結果が返され、職員の励みになっている。また、担当職員が2か月に1回写真と手紙を添えて便りを送っており、家族には利用者の様子がわかるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月主任会と職員会を開催し、職員の意見、要望が言える機会を作っている。改善できるところは速やかに対処してもらっている。	
			(外部評価) 職員は普段から施設長や管理者に意見を言いやすい環境であると感じており、月に1回開催する主任会議で職員の意見を集約し、その後職員会やユニット会義、ケア会議を実施して職員の意見を反映させている。施設長は個人面談を実施して職員の意見を聞く機会を設けたり、他施設での勤務経験を持つ職員などから業務内容の改善等の提案もある。また、研修制度も充実しており、多くの職員が研修に参加できるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況は代表者が十分把握しており、職員の福利厚生についても各自向上心をもって働けるように努められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤、非常勤の区別なく希望する研修には参加でき、参加費の負担、勤務扱い、時間給、交通費の支給等研修に参加しやすい体制が整っている。南予地区では研修参加人数が多いということでほぼ毎年表彰してもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の相互研修事業にもほぼ毎年参加し他施設との交流を図っている。各種研修会や運営推進会議を通じての交流もできている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面接や入居時の面談で十分な話を聞くようにしている。入居後は早期にセンター方式を活用し、家族や関係者より今までの暮らしぶりや本人の意向を聞き本人が安心して生活できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 担当者が2ヶ月に1回家族に写真入りのお便りを書き、近況報告を行い、その時点での意見や要望も伺うようにしている。面会時にも家族の話を聞き、良好な関係を築けるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) どのような支援が必要か、本人家族と十分に話し合い、状況を見極めながら対応しているが、時々家族と「その時」という点を話せない時もある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩、生活のパートナーとして毎日を支え合って生活をしています。コミュニケーションを図り、利用者さんのできる事は役割を分担してお手伝いをしてもらっています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者さんの担当を決め、2ヶ月に1回お便りを書き、近況報告等を行いより良い関係を築いている。家族にしかできない支援等は協力をお願いしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族だけでなく、催し物等には近所の方たちにも声掛けし、交流してもらっている。地域の知人の面会も多い。地域行事への参加や外出等により、馴染みの人との出会いや交流はあるほうだと思う。 (外部評価) 事業所では、面会を兼ねて来訪してもらい毎月の利用料を支払う仕組みにしており、家族との関係が途切れず緊密な関係が築けるようにしている。利用者は地元の出身者が多く、地域交流館で行われる行事や地域行事に出かけた際に知人に出会って言葉を交わす機会も多い。また、家族の協力を得て馴染みの理容室に行ったり、使い慣れた化粧水を購入できるように職員が同行するなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクやラジオ体操、リハビリ体操、散歩や軽作業を一緒に行うことで、気遣いや助け合う場面も見られる。声かけ合ったり、助け合ったりして仲良くお話しをして過ごされる事も多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院になった時には、見舞いや面会に行ったり、洗濯物の支援も行っている。退去後も家族と出会った時には様子を伺ったりして関係を大切にしている。葬儀に参列したり、弔電やお花を送ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月1回の職員会で話し合ったり、カンファレンスやケア会議では担当者が中心となって、本人、家族の思いや意向を確認しながらその思いに少しでも近付けるよう検討している。  (外部評価) 利用者1人を職員2名が担当し、担当者はゆったりと話しを聞くことができる夜勤帯の時間や、1対1になる入浴介助時に利用者の思いや意向を聞くよう努めており、廊下の壁面に飾られたかまぼこ板の似顔絵には利用者の思いや希望が添えられている。聞き取った内容は介護記録として記載し、ケア会議等で報告し職員間で共有している。墓参りを希望する利用者に職員が付き添ったり、自宅に帰りたいという利用者には外泊計画を立てるなど、その実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前、入居後の本人からの聞き取りや家族、関係者からの情報、知人友人、親戚の面会時の話でこれまでの暮らしの状況を把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で本人が拒否されない限り、一緒にできる事には参加してもらっている。体操、散歩、レク、お料理の手伝い等一人一人可能な範囲で活力ある生活を送って頂くよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランの作成や見直しは6ヶ月毎に家族や本人の意向を聞き、プランに反映している。モニタリングは担当職員が行い、課題があればケア会議等でその都度話し合っ、介護計画に反映している。	
			(外部評価) 計画作成担当者を中心に、利用者や家族の意向を確認して介護計画を作成し、ケア会議で話し合っ完成させている。日々の介護記録用紙に介護の目標を記載し、計画を意識しながらケアを実施して記録できるよう工夫している。担当職員が定期的にモニタリングを行い、状態に変化がある場合はその都度、ない場合は6か月に1回介護計画の見直しを行い、計画が現状に即したものになっているかを確認している。介護計画は家族が来訪した際に説明し同意を得ているほか、遠方の家族には計画を送付し、意見を記載し返送してもらい計画に反映させている。	現状に即した各利用者の介護計画の見直しをするにあたり、個別性のある利用者主体の暮らしを反映した利用者視点の介護計画を作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録や申し送り、引き継ぎ等で日々の暮らしや身体状況を把握しちょっとした変化も見逃さないよう、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに反映させている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の希望に応じた外出支援、係りつけ医の受診や町外の専門医の付き添い、訪問診療、訪問美容の利用等、個々の希望に添った支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域住民、各種ボランティア団体、地域の小中学生、運営推進委員、民生委員、介護相談員等、多方面から支援を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月1回の訪問診療を取り入れ、原則かかりつけ医としてい る。利用者の訴えにもとても優しく対応してもらい、きめ細 かな診療に安心感がある。緊急時には総合病院等を紹介して もらっている。もちろん、眼科、皮膚科、耳鼻科、心療内科 等専門医も必要に応じて受診、また、本人、家族の希望の医 療機関の受診も協力している。	
			(外部評価) 利用者は地元出身者が多く、協力医が元々のかかりつけ医で ある利用者が多い。協力医は月に1回事業所を訪問して丁寧 に診療をするほか、週に1回看護師が健康管理のため来訪 し、主治医と連携し対応している。専門科外来は事業所の福 祉車両を使用して施設長と管理者が付き添って受診し、診察 の結果を家族に報告している。また、入院が必要と判断され た場合は、施設長と管理者が家族と連絡を密にし支援してお り、家族の安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師は週1回勤務し、利用者の体調管理を行っている。看 護面での気付きや助言、技術的な指導やアドバイスを受けて いる。緊急時には連絡し、処置や通院をしてもらうこともあ る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、こまめに面会し、状況把握に努めている。病 院、家族との連絡、連携を図り、早期退院に向けて情報交換 を行っている。洗濯物の支援も行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 口から摂食できなくなった場合や、状態が悪化した場合、 ホームでの対応には限界があることを入居時に家族には伝え ている。看取りを希望される家族もある。現在看取り向け て研修等を行っているが、現段階では難しいと思われる。	
			(外部評価) 看取りに関する研修等を実施し、終末期のあり方や支援に ついては学んでいるものの、設備や職員体勢に課題があり、 施設長は現状での看取りは難しいと考えている。家族には、 入居時に事業所での対応に限界があることなどを説明してい るが、対応できなくなっても医療機関と連携を取ったり、利 用者や家族の相談には乗るなど、不安を感じさせないよう支 援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 原則、前年度受講できなかった職員が救急救命を受講、応急手当、心肺蘇生、AEDの使い方、応急手当等を学んでいる。これまで全職員が受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回定期的に避難訓練(火災、地震)を実施しており、内1回は消防署が立ち会っている。夜間想定での避難訓練は近隣の住民の方の協力を得ている。各災害のマニュアルも作成し、内部研修等で勉強している。  (外部評価) 年2回日中と夜間を想定し消防署立会いのもと、避難場所までの時間を測定するなど、実戦さながらの避難訓練を実施している。事業所の敷地内に市の助成で消火栓を設置し、建物内はスプリンクラーを完備するなど、火災対策は万全である。消防署が車で数分のところにあるため、救命救急講習等を連携し実施している。また、水や米など備蓄品の賞味期限等を確認し管理しているほか、地震等の場合でも対応できるようカセットコンロ等も常備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を大切にし、人生の先輩として、言葉使いや態度等に気を付けるよう心掛けている。個々のプライバシーに配慮し、広報誌等への写真掲載も本人、家族の了解を得ている。  (外部評価) 施設長は、月1回開催の職員会において、利用者を人生の先輩として常に敬い、言葉遣いには十分留意するよう指導している。「職員の声が大きく叱られているような気がする」と利用者から言われたことがあり、職員会で話し合って改善した。また、入居時に広報誌への写真の掲載等個人情報の取扱いについて利用者や家族から了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意思を尊重しており、普段の会話等で本人の思いを知るようにしている。自己決定が難しい場合は、必ず声掛けをし、一緒に考えるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 常に声掛けをし、希望に添って支援できるよう心掛けている。何事も強制はしないよう、本人のペースを尊重している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回、出張美容を利用している。外出時、イベント時には化粧をしたり、本人の好みの洋服を選び、着用される利用者もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園があり、利用者と一緒に収穫もしている。料理の下ごしらえ、かたづけ、お膳拭き等一人一人ができる事を活かして、一緒に楽しく食事ができるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所周辺には「百菜園」と命名された広大な菜園があり、収穫した旬の野菜を使った料理を提供し季節感を味わってもらっている。利用者には日常的に料理の下ごしらえやお盆拭き、食器の後片付け等できることを担ってもらっている。誕生日は利用者に希望を聞き、ちらし寿司やカレーライスなど好みのメニューにし、ケーキも購入しみんなで祝っている。また家族会では、職員と利用者が協同し手料理を振舞うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分量を毎日チェックして、一日の食事量や栄養バランス、水分量等把握している。水分量については、定着してきたので、水分摂取の難しい利用者のみ計量するように変更した。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員が傍について口腔ケアを行っている。自分できない人は職員が支援している。義歯は定期的にポリデント洗浄をして、清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄パターンや排泄チェック表に気を配りながら、時間を見計らってトイレ誘導をしている。尿意の解らない人も日中はトイレで排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表により排泄パターンを把握し、利用者全員が日中トイレで排泄できるよう支援している。紙おむつ使用者はいないが、転倒の危険性がある利用者は夜間のみポータブルトイレを使用しており、排泄用品は人目に付かないよう居室の隅に置くかクローゼットに収納するなど、羞恥心を感じさせないよう配慮している。便秘の場合は、医師や看護師と相談しながら服薬調整を行うなど、スムーズに排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適切な水分、食物繊維の摂取や体操等を行って、便秘に注意している。個人の排泄表を記録し便秘気味の人ばかりつけ医と相談しながら下剤管理も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴ができるよう支援している。入浴時はリラックスして会話を楽しんで頂いている。また、全身の状態を観察して気付いた事は報告している。入浴できない時は清拭行い、衣類交換をして清潔保持に努めている。	
			(外部評価) 2日に1回利用者一人ひとりがゆっくり入浴できるよう支援している。重度の利用者は、簡易入浴用リフトにより安全に入浴できるよう支援している。自宅では思うように入浴できていなかった利用者も、嫌がることなく入浴できている。また冬至に職員が自宅から柚子を持ってきて、柚子湯をゆっくり楽しむなど季節感が味わえるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人に合わせて室内の照明、冷暖房の調節をしている。毛布、クッション等各自で持参されている人もいる。各人のペースで安眠や休息ができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用している薬の効果や副作用がわかる説明書を個人ファイルで確認できる。薬の変更等は個人記録と申し送りで全職員が解るようにしている。誤薬がないよう、その都度名前と顔、服用時間を声に出して確認している。服用による症状の変化は主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の力が発揮できるよう、役割をもって手伝い等をしてもらっている。趣味等もそれぞれの好みに応じて提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩や日光浴等、利用者の状況に合わせて支援している。地域や他施設でのイベントにも参加している。かまぼこ展、乙亥相撲、イルミネーション見物、花見、もみじ狩り、お茶会等にも出かけている。家族や地域の方が外出支援をしてもらう事もある。 (外部評価) 天気のよい日は、重度の方を含め利用者全員が事業所の周辺を散歩しており、途中顔見知りになった人との会話を楽しんだり、牛小屋に居ついた猫を可愛がったりしている。また、乙亥相撲や歌謡大会、かまぼこ板の絵展、ダムのイルミネーションなどを利用者と一緒に見に行くなど、季節毎に外出が楽しめるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が小遣いの管理をしている。自己管理のできる人は少額を所持している。一部の人は職員が買い物に同行し、欲しい物を選んでもらうようにしているが、重度の方は職員が購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、家族に電話をかけて頂いている。家族との手紙のやり取りを頻繁にされている方もあり、切手の購入や手紙の投函等の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を絶やさないのでいつも飾っているので利用者より大変喜ばれている。掲示物も季節や行事ごとに工夫して張り替えている。床暖房、エアコン、加湿器等で居心地よい環境にしてある。</p> <p>(外部評価) 食堂とリビングがワンフロアで憩いの場になっており、食後はソファに座りテレビを見るなど、利用者一人ひとりが思い思いの時間を過ごしている。食堂から直接渡り廊下で地域交流館へ行けるようになっており、近隣住民とカラオケなどのイベントを楽しんでいる。リビングなどの壁に掲示された利用者の似顔絵や習字作品は、家族などの来訪者からも好評でいつも話題に上がり会話も弾んでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 天気の良い日は外に出たり、テレビを観たい人はリビングのソファで、好きな時間を過ごしたい人は自室で、軽作業をしたい人は食堂のテーブルでと、それぞれ自由に好みの場所で過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自分の使い慣れた家具等を持参している人もいる。居室には、家族の写真や誕生日の写真等を飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコンや電動ベッド、クローゼットが備え付けられ床暖房も設置されている。自宅から持ち込んだ仏壇や愛用のピンク色のソファを置いたり、ぬいぐるみや家族写真を飾ったり、壁にぬり絵や利用者の希望や思い等を飾るなど、居心地よく過ごせる部屋になっている。またクローゼットには衣類や排泄用品等がきれいに収納され、清掃も行き届き気持ちよく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ホーム内は安全に生活できるようにバリアフリーで適所に手摺りを付けている。各居室、トイレは解りやすいように目印も付けている。自立支援や安全な環境作りに努めている。</p>	